



主張

教職員の育成

池田 宗市

今、学校現場においては、大量退職、大量採用によって、年齢構成や経験年数の不均衡が生じています。これまでの学校において自然に行われてきた先輩教員から若手教員への知識や技術等の伝達が、今は行われているだろうか不安に思うことがあります。管理職の指導・助言や同僚との協働、先輩からのアドバイスも含めた日常のOJTの重要性を再認識し、意図的に校内研修やOJTの充実を図ることが大切です。

学校のOJTの基底となるのは、教員自身の「学びたい」という強い意識です。これからの予測困難な変化の激しい社会を生きていく目の前の中学生のことを考えると、むしろ教員自身が「自分が学ばねばならない」という使命感や覚悟に近い意識を高めていくことが必要だと思えます。

全日中群馬大会の分科会で、校内研究組織においてプロジェクトチームのリーダーを意欲のある若手教員に任せた実践が発表されました。サポートに回ったベテランの教員も若手教員の刺激を受けて新しいアイデアを提案するなど、研究組織全体が主体的に研究に取り組み、大きな成果をあげた実践でした。若い先生方の強い覚悟と、若手任せにせずサポートするベテランの先生方が共に学んでいる職員室での姿が想像できます。そこには、



校内で学び合える風土や信頼関係があったに違いありません。

初任者であっても経験豊富な教員であっても、学び続ける教員として、常に成長し続けることが重要であり、主体的に意見交換ができる教職員集団の探求心や常に学び続ける職場環境を意図的につくり出すのは、校長のマネジメントによることとなります。学校を取り巻く課題等が多種多様である中で、校長のリーダーシップのもと限られた時間や資源を活用し、教員の多忙化にも配慮しつつ、効果的・効率的なOJTにより、教員の資質の向上が図られることを願います。

若い頃、先輩の教員に「授業が成立するには、技術、情熱、教材観の三つの要素が必要だ。一番素晴らしい授業者は、この三つの要素を全て完全に兼ね備えている授業者だが、一番ダメなのはどんな授業者だと思うか？」と問われたことがあります。「三つの要素が全て不十分な授業者です。」と答えると、「技術も情熱もなく教材の専門性もない授業はまったく伝わらないダメな授業だが、もつとダメな授業がある。それは、高い技術で熱い情熱をもって、間違った教材観で教えることだ。これは恐ろしいことだよ。」とアドバイスされました。高い教材の専門性を身に付けることが何よりも重要であることを分かりやすく教えてくださったこの言葉は、若い教員であった私にはとても印象深いアドバイスであり、その後、教員として心がけてきたことです。

若い教員が学校の中で、ベテラン教員のアドバイスを受けながら生き生きと活動することとは、学校の活性化につながることは言うまでもありません。私たち校長自身も、若い教員の心に響く指導・助言ができる先輩教員でありたいと思います。

(全日中副会長・松江市立第三中学校長)